

## 令和5年度 第2回川崎市社会教育委員会会議多摩市民館専門部会摘録

- ・日 時 令和5年9月26日(火) 10時～12時
- ・場 所 多摩市民館 第6会議室
- ・出席委員 羽深委員、小澤委員、米山委員、山本委員、安陪委員、三品委員、高梨委員
- ・欠席委員 小園委員
- ・事務局 柏原館長、星野係長、篠原係長
- ・傍聴者 2名

### 多摩市民館事業の見学

会議の冒頭、令和5年度多摩市民館子育て支援啓発事業「子育てひろば」(多摩市民館5階児童室)を見学

#### 1 開 会 (星野係長)

#### 2 部会長挨拶

#### 3 館長挨拶

#### 4 令和5年度第1回会議録について

**資料1**に基づき星野係長から説明し承認された。特に質疑はなし。

#### 5 議 題

##### (1) 令和5年度施設管理等について (報告)

**資料2**に基づき星野係長から説明。特に質疑はなし。

##### (2) 令和5年度多摩市民館社会教育振興事業について (報告)

**資料3**に基づき篠原係長から説明。

(羽深委員)

大変多くの事業がある。事業の中には区役所が主体となって行うもののほか、外部の方がこういう事業を行いたいと提案されるものもあると思うが、そのような提案があった場合、どのような基準で実施の判断をしているか。また、区役所が新たに実施する事業、これまで継続して行ってきた事業の中において、区民の意見をどのように取り入れているのか。

(事務局：篠原係長)

外部の方から市民館活用の御提案をいただく事業として、市民自主企画事業や市民自主学級がある。市民館を利用している方やこれから利用したいと思っている方の想いを具現化して、市民館と一緒に実施していただく制度となっている。この事業の活用についてアドバイスをするほか、他の助成金制度や施設を御案内するなど、提案される方の想いや実現可能性なども考慮しながら、情報提供を行っている。こうしたやり取りをしながら、市民館と一緒に取り組めそうな事業について12月からの市民自主企画事業等に応募いただけるような流れを作るようにしている。

次に、区役所が主体となる事業についてだが、「たまたま子育てまつり」は、区民による実行委員会が実施する事業を区役所の地域課題対応事業として位置づけ、負担金を交付し、区役所も一緒になって子育てを応援する形で実施している。実行委員会の中で、より良い事業となるよう、毎年区民の皆さんと意見を出し合いながら進めているところである。

(柏原館長)

普段様々なサークル活動などを行っている方々がみんなで集まって交流したいということで、多摩市民館を利用して学びのフェアが開催されており、日頃の活動の発表などが行われている。また、生涯学習の活動をしている方々と区役所が連携する取組も積極的に進めており、昨年度から区民との協働の形態を模索している事業として、生涯学習交流集会がある。多摩区において生涯学習の取組を実施している方々と地域包括ケアシステムの構築を進める地域みまもり支援センターが連携して何かできないかということで、昨年度は「地ケアフォーラム」と「生涯学習交流集会」を一緒に開催したところである。

(山本委員)

資料1 1ページの「多摩区子育て支援会議」は、具体的にどのようなグループが参加しているのか。

(篠原係長)

参考資料として配布しているリーフレット「多摩区で子育て」に掲載されている団体の担当者が多く参加している。役所だけでなく民間、ボランティア、地域で子育て支援の活動をしている方、学校長などが参加されており、日頃活動する上での生の声を持ち寄り情報共有をしている。

(山本委員)

何名くらいが参加されているのか。リーフレットに掲載されている団体すべてが参加しているわけではないと思うが。

(篠原係長)

例えば、こども文化センターであれば1つの館が代表して参加していたり、保育園関係であれば、区役所の保育所等・地域連携担当職員や地域子育て支援センターのある園が代表して参加するなどしている。

(柏原館長)

子育てに関する情報については、「多摩区で子育て」の他にも、区役所の地域みまもり支援センターが作成している「多摩区地域子育て情報BOOK」や道路公園センターが作成している「多摩区公園BOOK」もあるので、そちらも御覧いただければと思う。

### (3) 今季のテーマについて

**資料4**に基づき篠原係長から説明。

前回の会議の際に宿題となっていた今期の審議テーマのタイトルについて、資料4(13頁)のとおり、『区内全域への社会教育アプローチ強化の取組について～アウトリーチ・モデルの実践を通して～』という事務局案を作成したので御審議いただきたい。

前回いろいろな御意見をいただいたが、区内全体をフィールドとすることを踏まえつつ、多摩市民館へ来づらい方々への社会教育の提供、アプローチをどうしたらよいかを考える上で、昨年度議論いただいたモデルの実践という考え方を盛り込んだものである。

(高梨部会長)

社会教育アプローチとはどのようなイメージか。

(柏原館長)

言葉のすわりは悪いかもしれないが、「社会教育アプローチ」で一括りの言葉というよりは、行き届かない地域へのアプローチを強化していきたいという考えである。

(三品委員)

それならば、「社会教育」という言葉を前に持っていき、『社会教育の区内全域へのアプローチ強化の取組について』とする方がすわりが良いのではないかと。

(高梨部会長)

「社会教育」という言葉のおさまりの良いのは「実践」の前ではないかと。

(三品委員)

「アウトリーチ」とは、市民館にアクセスしにくいところへの取組を強化していくという考え方でよいか。

(柏原館長)

そのとおり。市民館の中だけで事業を行うのではなく、アクセスの悪い地域に向けた取組や情報を行き渡らせる取組を強化していくものである。

(篠原係長)

タイトルについていろいろな御意見をいただいているが、そもそもこの会議は社会教育委員会議であり、社会教育をテーマに話し合いを行っていることは多くの方に御理解いただけると思うので、タイトルから「社会教育」という言葉を取り、『区内全域へのアプローチ強化の取組について』とするのはいかがかと。

(三品委員)

「社会教育」という言葉は残しておいた方がよいと思う。主語がないと何を強化しているのか分かりづらくなってしまいます。『社会教育の区内全域へのアプローチ強化の取組について』とするのが良いのではないかと。

(高梨部会長)

タイトルを付けるとき、どうしても「の」が多くなってしまいますので、読み手に分かりやすくする方がよい。「社会教育」という言葉を入れるのであれば、『社会教育的実践を通して』などといった使い方も考えられる。無理に入れなくてもよいとは思いますが。

(柏原館長)

一旦、「社会教育」という言葉を一番前に持っていく三品委員の案『社会教育の区内全域へのアプローチ強化の取組について』について確認したい。

(三品委員)

何をするのが最初に分かるので、この案が良いと思う。

(柏原館長)

「の」が多いので、「取組」という文言を取り、『社会教育の区内全域へのアプローチ強化について』とするのはいかがかと。

(篠原係長)

副題で掲げる「アウトリーチ・モデルの実践」が実施すべき取組のことを言っているので、タイトルから「取組」という文言はとって良いと思う。

(米山副部長)

区内全域への社会教育のアプローチを強化するという元の案の方が良いと思う。今期のテーマは元々、区内で市民館を使いにくい人のところへアプローチしていく、というところから始まっているので、「区内全域」という文言が前にある方が良い。いろいろな方に市民館を上手く活用してもらえるよう考えていくべきである。

(高梨部会長)

前期は、タイトルを『市民館と地域の連携』と端的にして、副題の『市民館の認知度向上と地域資源の活用について』で内容の説明をしている。今期の報告書において一番言いたいことをタイトルで示せるとよいと思う。

(三品委員)

私は「社会教育」という文言を頭に入れたいと思っており、対案として『社会教育のアウトリーチ・モデル～区内全域へのアプローチ強化について～』という主題と副題を入れ替える案ではいかがか。

(柏原館長)

この案だと、やりたいことと取り組むことが逆になってしまうかと。やりたいこと、目指すことはアプローチを強化していくことなので、主題と副題は逆にならない方が良いと思う。地域に出向いて講座などを行うというアウトリーチの仕方もあるが、講座の開催自体を目的とするのではなく、こうした活動が広がることで市民館の認知度が上がり、情報が行き届きやすくなる、皆さんの中で市民館は良いことをしていると期待してもらえるようになることを目指しているものである。

(三品委員)

最終的に出前講座などのアウトリーチ・モデルを作りたいということではないのか。その目的として、地域全体へのアプローチを強化していくため、ということではないのか。

(柏原館長)

モデルを作ること自体が目的というよりは、モデルを実践していくことにより、いろいろな課題や地域の実情などやるべきことが見えてくるので、目指すべき目標に向けて我々も様々なことを学んでいきたいと考えているものである。

(高梨部会長)

アウトリーチ・モデルは一つのツールであり、その結果として市民館の認知度向上や市民館・市民が繋がるパイプ作りを目指すもので、その思いが「アプローチ強化」という言葉に表れていると思う。

(三品委員)

実際にやりたいことだけでなく、それを通してどうしていくかということも考えて出していくということか。そうであれば、元の案に戻した方が良い。

(柏原館長)

あとは、「社会教育」という言葉をどうするのだが、その点は次回、もう少し報告書のまとめ作業が進んでから改めて御検討いただきたい。

(安倍委員)

多摩区全域でどこでも講演会や出前講座を聴ける場所が多くある、その中心として機能していくのが市民館であるということ言えばよい。

(米山副部長)

今期のテーマは、市民館を皆さんに使ってくださいとアピールする狙いもある。出前などの取組を通じて知名度が上がれば、アクセスが不便でも市民館に来てくれるようになるかもしれない。

(高梨部会長)

市民館という存在について、あそこに行けば面白いことがありそう、自分にとってためになることがありそうと認識が広がれば、生涯学習・社会教育の発展にもつながっていくと思うので、そういう方向性でまとめられるとよい。

(篠原係長)

次に、モデルとなる取組をどのように進めているかという報告も兼ねて報告書の内容案を御確認いただき、その方向性について御議論いただきたい。

資料4のP 14～19に基づき篠原係長から説明。

(三品委員)

P 15「Iはじめに」において、今期のテーマの目指すところである「区域全域へのアプローチ強化」という言葉が使われていない。様々な方が社会教育にアクセスしやすくするという観点を一言でも載せた方がよい。

(柏原館長)

この後、報告書を作成する中で、その視点を盛り込んでいきたい。

(高梨部会長)

今後モデルとなる講座を実施することだが、アンケートは取るのか。

(篠原係長)

実施する予定である。

## 6 今年度の日程について

資料5に基づき星野から説明。次回専門部会の日程を12月12日(火)14時～に決定した。

## 7 閉会(米山副部会長)